



いのちの学習会

12月17日（木）

1 学年対象「いのちの学習会」を実施しました。講師は筑波大学医学医療系消化器外科・臓器移植外科の高橋一広先生です。

日本における臓器提供にまつわる様々な課題について、具体的な資料をもとに丁寧に説明していただきました。

現在日本では、臓器移植を待っている重症の患者さんがたくさんいること、臓器を提供するドナーが少ないこと、ドナー登録に対する認知度が高まらないことなどが課題になっています。これを解消するために海外で移植を受けようとする、一人の手術に3億円という莫大な費用が掛かります。そして、日本人が臓器提供手術を海外で受けると、現地の患者が後回しになるという重苦しい矛盾も生じます。



講演後、高橋先生が、「命を守るための方法に正解はない。このような機会を通じて、命の重さについて高校生に考えてもらうきっかけをつくるのが我々の仕事でもある」と話していました。「一般論で語ることはできても、自分の家族が患者となったりドナーとなったりすれば、捉え方は違ってきます」という言葉にも共感しました。

今回は道德の授業の一環として実施しましたが、生徒達には世の中で起きている様々な問題を自分事として考えるようになってほしいと思います。

